

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175200104		
法人名	有限会社 エポック		
事業所名	グループホーム ひかり館		
所在地	網走郡大空町女満別中央37番地23		
自己評価作成日	令和4年2月17日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「個人を尊重する感情豊かな生活」「心身共に健やかな生活 想像・創造する」「地域との交流を生かす」を基本理念として、日々の支援を行っている。
 ・利用者様は、職員と一緒に工作や塗り絵、パズル等を楽しむ等、その時々利用者様の思いを尊重しながら対応させて頂いております。
 ・ご家族様とのつながりを大切にしており、毎月利用者様の状態報告や日頃の様子等を通信に個別に記載して送付したり、必要なときひは利用者様の状況を電話連絡したりしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0175200104-00&Se
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームひかり館は大空町の中心部からは少し離れた自然豊かな場所に開設されています。新型コロナウイルス感染症の影響で不自由な暮らしを強いられている現在、家族との直接の面会はできず窓越し面会で行われていますが、日常生活の中で塗り絵、切り絵、ジグソーパズル、編み物等の趣味の時間を多く持ち、利用者の気持ちを和ませたり、楽しみを増やし穏やかな生活ができるよう支援に努めています。入浴時や食後のコーヒーを飲む時間に多く会話しながら把握し、希望の暮らし方が出来る様に取り組んでいます。介護計画は変化の少ない利用者は1年ごとの見直しですがケアマネージャーにより3か月ごとにモニタリングで評価を行っており現状に即した計画を作成し、サービス提供に努めており、介護記録に様子が記載されています。また、利用者家族からは、電話連絡や通信でのお知らせ、アンケート募集等のきめ細かな対応について、多くの信頼を得ているグループホームとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を館内の職員が見える場所に掲示しており、共有し理念に基づいたケアの実践に努めている。	理念を玄関、リビング、ロビー、事務所と目につく場所に掲示し、職員が実践できるように努めている他、通信にも掲載し利用者家族にも広く知らせています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件上、地域住民との交流が難しく、また新型コロナウイルス感染症の影響で施設外の方との交流が困難な状況が続いているが、地元の理容室に来ていただく等、可能な限り交流の場を広げられるよう取り組んでいる。	グループホームの開設場所が遠隔地であり近隣住宅との交流はされていません。ただボランティアや高校生との交流がありましたが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響で休止されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響で今年度も実施出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も新型コロナウイルス感染症の景況で、運営推進会議は書面にて実施しており、ご意見等を頂けるように資料送付時にアンケート用紙と返信用封筒を同封させて頂いている。	運営推進会議は2か月ごとに開催していますが現在は書面開催になっています。書類郵送時にアンケート、返信封筒を同封し意見を求め運営に役立てています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議等への参加等により、情報共有を図り、関係構築に努めている。	町担当者とは運営推進会議への出席や地域ケア会議で同席し情報を共有しています。また、介護保険法運営基準の相談を行い助言や指導を得て運営に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、定例会議等での勉強会等により、職員の身体拘束への理解を深めている。	身体拘束廃止に向けては指定基準の禁止対象となる行為をしないように、日常の介護の中で気を付けており、管理者、職員で理解を深めケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止に向けては早急に指針を作成し、委員会開催や研修に取り組むことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修及び定例会議等での勉強会により、虐待や不適切なケアについて学んでいる。また、虐待に繋がるような声掛け等がないよう、職員同士声を掛け合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業や成年後見制度を必要としている方はいないが、知識を深め今後機会があった時にスムーズに活用できるように準備する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約・改定等の際には分かりやすく説明するように心掛け、都度ご家族様から疑問点・不明点がないか確認を取りながら実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等の際に意見や要望を伺っている。運営推進会議の資料配布時に同封しているアンケート用紙が返送されてきた際には、職員に知ってもらう機会を設けている。	利用者、家族の意見や要望は日常業務や面会時に把握するように努めていますが、家族との面会は新型コロナウイルス感染症の影響で、窓越し面会を行っておりその時に把握するか、電話やアンケートで把握し運営に取り入れています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の中で、職員の意見・提案を聞く機会を設け反映に繋げている。また、日々の申し送り等から挙がった意見・提案も検討し反映に繋げている。	職員の意見や提案は日常業務の中や会議で把握するように努めており出された提案は議論し反映するようにしています。	職員会議は年2回程度の開催であり職員からの意見聴取は少ない状況になっています。個別面談や対面会議開催を含め開催を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務中の職員の観察や会話・面接等により、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。また、社会保険労務士に相談し、給与水準や労働時間等の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は都度実施している。外部研修については、新型コロナウイルス感染症の影響で実施出来ていないが、例年は年に1回以上の外部研修参加を目標にし、参加した職員には定例会議等で研修報告を行ってもらい、全員で共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入や研修会等に参加することでネットワーク作りやサービスの質の向上を図っている。また、地域ケア会議等で近隣の居宅支援事業所や特別養護老人ホームの方と、意見・情報交換をさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えや要望に耳を傾け、不安等の解消に努めながら信頼関係の構築を図っている。施設での生活に慣れ安心して過ごせるように、ご家族様とも情報を共有して関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から申請、契約、入居までの間にも、ご家族様との話し合いを実施し、不安点・要望を随時確認している。また、面会の際にも近況報告等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からの不安に加え、ご本人様の入居前の生活状況や生活歴等を確認し、必要としている支援を見極めて、他のサービス利用を含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、同じテーブルでの食事や日常会話、ゲーム、入居者様が可能な家事等を一緒に行うことによって、共存関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会・来訪時に近況報告を行い、ご家族様の意見も伺いながら、ともに本人を支えていく関係を築いている。また、来訪困難なご家族様には病院受診の結果やご本人様の写真を添えて月一回の通信で近況報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけではなく、ご本人様がこれまで大切にしてきた馴染みの方が気軽に面会に来て頂けるような環境作りに努めている。	コロナ禍以前は知人の訪問がありましたが、現在は禁止の状態になっています。携帯電話を持っている利用者もあり電話での交流を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないように、食事の席等を考えて入居者様同士の関係が良好に保たれるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じていつでも相談を受けることを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や様子を観察し一人一人の意向や希望の把握に努め、希望等を話して頂けた時には、希望に添える支援ができるように心掛けている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は日常の会話で把握し希望に添えるように努めています。特に入浴時や食後のコーヒーの時間に会話をすることが多くあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず訪問調査を行い、ご本人様・ご家族様にお会いして生活状況・生活歴・生活環境、これまでのサービス利用の経過等を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日常の過ごし方や起床時・食事時・トイレ時の状態を見て、現状の把握に努めている。また、日々の変化を生活記録や申し送り等を利用して、職員間で情報交換・共有することにより現状把握ができるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング等を行い、課題やケアについて、本人、家族、スタッフと話し、それぞれの意見やアイデアを聞き取りながら介護計画を作成している。	介護計画は変化の少ない時は基本的に1年の期間で見直しに取り組んでいます。サービス担当者会議へ家族の出席は少ない状況ですが事前に要望を把握し計画に取り入れ現状に即した介護計画を作成しサービス提供に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々生活記録を残して、それをもとに職員全体で情報交換を行い、ケアの実践の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに、ご本人様、ご家族様、職員で、どのような支援が可能なのかを検討して、柔軟な支援・サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	立地条件上、地域資源の利用は難しいが、地域の理容室に来て頂く等、今後も利用可能な地域資源を活用しながら、入居者様が安全で豊かな暮らしを楽しんで頂けるように努めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望される医療機関に受診しており、かかりつけ医には常に状況報告を行っている。また、緊急時にも対応して頂けるような体制を整えている。	かかりつけ医への受診は利用者、家族の希望する医療機関に受診し事業所が対応しています。町外へ受診は家族が行っています。利用者全員が訪問看護師による健康管理が行われ、訪問診療を利用されている方もおり利用者、家族の安心に繋がっています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニット月2回の訪問看護の際に、健康状態の把握、気になる症状を相談し助言を頂き、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、最近の状態等を記入した添書を作成し、医療機関に提出している。また、ご家族様の了承を得て、医療機関との情報交換に努め、退院後も情報共有に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設でどの状態まで支援できるかをご家族様に十分に説明し、入居者様の状態にあわせて医療機関や他施設の関係者を交えて支援に取り組んでいる。	看取りに関しては医療機関との協力体制が整っていないため、現状では事業所が出来ることを利用者、家族に説明し理解を得ています。	重度化についての基本方針を作成し利用者や家族に説明し理解、了承した旨の文章の整備を期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルス感染症の影響で、外部での講習、外部の方を招いた講習等は出来ていないが、内部研修等で利用者の急変や事故発生時に備えられるように努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施し、昼夜を問わず利用者を避難誘導出来るように努めている。	年2回、昼夜想定で火災避難訓練を実施しています。あらゆる災害に対して備蓄品など準備しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定例会議等で人格の尊重やプライバシーの確保について確認している。また、言葉遣いには特に注意し、個々を尊重した言葉遣いで支援している。	利用者一人ひとりを尊重し人としての尊厳を守れることを心掛けています。利用者の個人ファイル、パット類は適切に保管されプライバシーの保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者様が思いや希望を表せるような環境作りを心掛けており、自己決定ができるように働きかけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切にし、利用者様の希望に沿った支援を心掛けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援が必要な利用者様には、声掛けして身だしなみや衣類の選択等の支援を行っている。また、支援をあまり必要とされていない方は、本人の意向を大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食に力を入れて提供させて頂いている。また、調理の下ごしらえや片付け等にも可能な範囲で手伝って頂いている。	メニューは管理者が作成し職員が調理を行い、利用者は下拵えなど出来ることを行っています。利用者一人ひとりに合った食事形態に対応しています。行事食や誕生日は利用者の好みを聞き楽しい食事になるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を個々に記録しており、必要量確保できるように支援している。摂取が難しい状態の時は、ご家族様と相談して、好みの物を用意したりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛け又は支援により口腔ケアを実施しており、個々の状態にあった支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な利用者様には、一人一人の能力や排泄の習慣を活かして、トイレでの排泄を継続できるように支援している。	殆どの利用者は自立歩行が可能でありトイレで排泄を行っています。介助が必要な場合は個々に合ったタイミング、声掛けをし誘導で出来るだけトイレでの自立排泄に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便状況を確認して、飲食物の工夫や運動の働きかけ、場合によっては病院と下剤等の相談をしながら、個々にあった支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の意思を可能な限り尊重し、気分が乗らない時には日時を変更する等、柔軟に対応している。	週2回を基本に利用者の希望、体調、状態を考慮し入浴を支援しています。同性介助にも対応し入浴時には会話を楽しみながらコミュニケーションをとり信頼関係を築いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣や身体状況に応じて入床を勧めて、休息をとって頂くようにしている。また、室温・湿度を調整して、安心して休めるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合には、受診記録や申し送りに記載して、職員間で周知徹底している。服薬介助時は、職員同士で声に出して利用者様の名前を確認して誤薬のないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様同士が楽しく会話したりできる環境作りに努めている。また、洗濯物の片づけや調理の下ごしらえ等の家事のお手伝いをして頂くことにより、個々の力を活かした役割を担って頂く支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に合わせて外気浴等は実施している。外出については、新型コロナウイルス感染症の影響で実施出来ない状況が続いている。	天気の良い日の散歩やベランダでの日光浴を行っています。現状では思うように外出が出来ない状況となっていますが、中には家族と外食に出掛ける方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理能力等を考慮して、利用者様・ご家族様と相談しながら、希望に応じて金銭を所持して頂くこともできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの申し出があれば、電話をかけられるような環境作りに努めている。また、手紙が届いた場合は、希望があれば返事が出せるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースについては、落ち着いた配色、分かりやすい表示・動線になっている。季節感が感じられる飾り付け等を利用者様と職員と一緒に作成して飾っている。	居間には大きな窓から日が差し、利用者が集う食卓テーブルやソファなどが置かれています。毎月、行事毎の飾り付けを職員と一緒に装飾しています。廊下での歩行運動やジグソーパズル、貼り絵などを行い日々の生活を有意義に過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で、休憩したりテレビをみたり、パズル等で遊ばれたり楽しんでおられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には利用者様の使いなれた家具等を持ち込んで頂くようにしている。入居後も家具の配置等は利用者様と一緒に考え、居心地よく過ごせるように配慮している。	居室にはクローゼットが備え付けられ、使い慣れた家具などを持ち込み、編み物をしたりと今までの生活が継続できるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体・認知機能にあわせて、車イスの自走や歩行器の使用を安全に行ったり、居室やトイレ等の貼り紙を利用者様の目線に合わせて配置して、自立した生活を送れるような環境作りに努めている。		